

芭蕉像と石碑を見る人々＝14日、渡辺修次区議撮影



旅立ち体験「芭蕉サミット」

ました。松尾芭蕉の紀行『奥の細道』旅立ちの起点としても有名な芭蕉ゆかりの全国三十七自治体が参加する第十九回「奥の細道芭蕉サミット」が十三、十四の両日、足立区内で開催されました。

江戸時代、神田、駒込と並んで千住には幕府の御用市場が置かれ、最も大きい市場としてにぎわいました。納人品は、川魚のほか

道矢立初の芭蕉像」などを見ながら、旧日光街道沿いを多くの参加者が歩きました。

セリのかげ声といわれています。戦前まで、通りに面した石畳の上に野菜類を並べ、セリが行われていました。通りには昔の「屋号」と一部解説の看板があります。「車茶屋云々」という看板もあり、大八車を預け、野菜の積み降ろしを行う駐車場の役割の家や、水菓子屋などの店舗があったことがわかります。

党区議団が提案

日本共産党足立区議団は、大型店の大量進出でさびれつつある地元商店街の活性化のために、歴史と伝統を生かした各種イベントを行うなど、行政としても集客努力に貢献するよう提案しています。

秋には一茶まつり

街の振興へ多彩に

足立区議から寄せられたりポートを紹介します。



足立区は二十三区の東北部に位置し、千住は江戸時代四宿の一つとして歴史を刻んでき

十四日には約二百八十人が芭蕉の住んでいた江東区深川から千住橋戸町の大橋公園まで屋形船で移動し、「芭蕉の旅立ち」を体験しました。その後、昨年新たにできた「奥の細

屋号の保存や解説の設置には、「芭蕉まつり」などを企画している「千住大賑(にぎわい会)」が、昔の街並みを復活させようと頑張っています。

足立

足立区は松尾芭蕉や小林一茶にゆかりのある地です。歴史と伝統を生かしたまちおこしの取り組みについて、日本共産党の渡辺修次